

外国人材の支援～広島と世界をつなぎ、未来と夢の実現をサポート～ レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹

広島市出身で、約30年間を東京本社の専門商社で勤務し、帰郷後の15年間(ひろしま産業振興機構、ひろしま国際センター)を留学生の就職支援事業に携わり、外国人留学生への幅広い支援を行っている一般社団法人グローバル人財ネットワークの代表である尾本勝昭さんにお話を聞いた。

〈外国人起業塾で留学生を伴走支援〉

行政が関与して留学生を支援する法人・団体も多いが、尾本さんは一人ひとりのライフ・キャリアに寄り添い、伴走型の支援活動を目指す。「留学生の留学目的(夢)を確認し、入口(日本への入国)から出口(日本企業への就職、起業)までのライフ・キャリアを伴走する支援」を目標としていると尾本さん。同時に、地域のネットワークを活かして、留学生や日本人が地域課題の解決を目標にグローバルに活躍できる人材の育成、多文化共生社会の地域づくりに取り組んでいる。

2020年に法人を設立し、理事5名と約10名の伴走支援スタッフとで活動をスタート。公的機関の活動を含め、現在までに約400人を超える留学生、外国人材の就労を支援してきている。

〈高度外国人材の起業家支援〉

起業を目指す外国人留学生を対象に、就労に必要な知識とスキルを習得できる外国人起業塾を2021年にスタート。留学生のニーズ(夢)に寄り添ったビジネスプランの相談を行っている。

〈外国人留学生の就職・定着支援〉

広島の企業とのマッチングと転職や起業を含めたライフ・キャリア支援。最近では、東京から広島への転職の相談も行っている。今年

度は、ひろしま国際センターの留学生就職支援事業(合同企業説明会)を受託し、来年の3月に広島市留学生会館で会を開催予定。

〈外国人材へのIT支援〉

広島はものづくり企業が多く、IT系人材などの理工系人材を求める企業も多い。伴走支援者にはITの専門家もいるため、幅広い人材へのIT支援にも力を入れていきたい。

〈地域の多文化共生ネットワーク形成の支援〉

地域のネットワークを活用して、気軽な交流会を定期的に開催している。今年度は8月に広島市留学生会館で100人規模の「気楽な交流会」を開催予定。起業を目指す外国人材、先輩起業家などが集い、ビジネスプランを通して、外国人の居場所づくりに取り組んでいる。

広島県は留学生が注目する地域。今回の新型コロナウイルス拡大の影響や豪雨災害などの災害時には孤立する外国人も多い。今後は幅広いネットワークを活用し、外国人材の生活面での支援も必要と考えている。

「留学先の広島の街で、将来に渡って母国と広島を繋ぐ仕事、できれば平和や地域貢献(グローバル)に関わる仕事をしたい留学生が多い」と言う尾本さん。確かに、留学生の想いを叶える受け皿となるビジネスが広島で充実するといいな…と思いつきながら取材を終えた。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島の市民レポーターです。
▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



▲尾本勝昭さん

らしくコラム

Rashikku column

G7開催による広島への経済効果

アベノミクスに始まった地方創生、地域再生の骨太政策の一環であった外国人観光客のビザの規制緩和によって2015年以降、日本経済は外国人観光客、インバウンドによって経済効果をもたらせた。特に、中国人の富裕層は高級腕時計やラグジュアリーブランドに惜しみなくお金を費やし、一方、大型クルーズ船でやってくる所得の比較的低い中国人は年収150万円の1割を使い、彼らの消費は爆買いと揶揄された。

当時の試算ではインバウンド需要は4兆円規模と言われ、来る東京オリンピックイヤーも後押し、景気好転を誰もが疑わなかった。しかし、2020年1月、中国武漢市に端を発する新型コロナ、COVID-19のパンデミックによって世界経済、世界情勢は未曾有の感染拡大によって全てが一変した。特に経済活動は停滞し、それまで順風満帆だった観光産業は国内観光はもとよりインバウンドの水際対策にも関わらず老舗旅館の倒産、有名土産店の破産など枚挙にいとまがない。経産省も中小企業・小規模事業者の物産品をJAPAN BRANDとして海外へ販路を見出すための補助金などの施策を取ったが焼け石に水であった。

さて、2023年、G7広島サミットでは全国から2.4万人の警察官が召集され、厳戒態勢が取られた。まずは単純だが、2.4万人の警察官の経費は恐らく宿泊単価@5,000~6,000円、食事3食分1,800円、滞在期間14日間とすると、3兆2400億円の概算となる。これまでの調査では広島観光は3時間Tripと言われ、西歐人は平和記念公園、宮島の2つの世界遺産を見れば宮島口からJRに乗り新幹線で大阪のホテルへ戻るパターンが圧倒的に多かった。今回のG7広島サミットでは原爆資料館の滞在時間が40分と長くとられていた。そして慰霊碑に各国首脳が献花。2日目は宮島へバイデン大統領を除

く各国首脳たちは護衛船で渡る。大鳥居、神殿を眺め、再度会合の席に就く。

G7広島サミットが終わって丁度10日が経過した。待ちに待った観光客が朝から原爆資料館に長い行列を作った。待ちわびた観光客は恐らく聖地巡礼のような気持ちで現場に立っているのではないだろうか。テレビでは会合の席で振舞われた酒などが徐々に紹介されている。また、各国首脳がG7広島サミットで土産として配られた万年筆と同様のタイプの5本も購入した者がいたという。

2021年2月のインバウンドデータでは広島県の観光客は96万人、平均宿泊数3.7泊、1人当たり旅費単価35,785円、しかしこれは中国5県のなかで下から2番目である。この数値を元に概算すると、仮に60万人が広島、宮島を訪れるとすると794億4270万円が純粋な宿泊価格となる。勿論、これに食事代1万円とすると60億円、お土産代が含まれると、1人当たりのお土産代を6,000円とすると36億円となる。上述の宿泊費とお土産代を合算すると890億4270万円が経済効果となる。ここ暫くはG7広島サミット効果が続くだろう。



Profile
広島修道大学
商学部 教授
川原 直毅

西南学院大学大学院経営学専攻博士後期課程単位取得満期退学、経営学修士、中小企業事業団(現、中小企業基盤機構)中小企業大学校研究指導員などを経て、現職。市場調査論、消費行動心理学、ブランド戦略。令和5年度「広島市政功労賞」受賞。

ようこそ! 公民館へ

～南区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 ウクレレ「アロハ」

大河公民館

ウクレレ「アロハ」は、昨年(2022年)8月に発足したばかりのグループです。現在の会員は9名で、毎月第1、第3水曜日の午後2時から4時に活動しています。

私たちのグループが出来たきっかけは、昨年6月に公民館で開催された「地域の達人に学ぶ、やさしいウクレレ入門」です。

「ウクレレを楽しみたい」と初心者から経験者まで13人の参加でスタートしました。

講座終了後、ウクレレ好きの仲間同士ですぐに話がまとまり、新たなグループの誕生となりました。

講師は地元の方で、みんなで和気あいあいとウクレレ演奏を楽しんでいます。「手と口と頭を使うウクレレの練習は、認知機能の低下を遅らせる」と会員からの声が出るほどです。

練習曲は、ハワイアン音楽をはじめ、童謡・唱歌、歌謡曲など幅広いジャンルを楽しんでいます。そして、今年の公民館まつりの発表を目指して研さんを重ねています。



2 ふれあいガーデン「くすな」

楠那公民館

荒れた公民館花だんをなんとかしようと、公民館の呼びかけに応じた地域住民がグループ化し、令和2年4月に発足しました。現在11人で活動中です。花だんのレイアウトや作業内容を決め、曜日ごとに当番で水やりや花がら摘みなどを行っています。主に、フラワー

フェスティバルで配られる苗や種から育てた苗を植栽し、あまった苗は町内会や近隣の小学校などに配ってみなさんに喜んでいただいています。

荒れたスペースが統一感のある花だんに様変わりし「素敵な花だんですね」としばしば声をかけられるようになりました。保育園の送迎に通りがかる園児や保護者にも、色とりどりの花を楽しんでいただいています。これまでに「南区花と緑のまちかどコンテスト優秀賞」、「全国花のまちづくりコンクール団体部門入選」を受賞し、活動の励みになっています。花好きな方や何か始めてみたい方、私たちと一緒に楽しみながら活動しませんか。

【活動内容】

- ・花に関する勉強会やミーティング(3か月に1回程度)
- ・曜日当番制での花の水やりなど



3 うじな通実行委員会

宇品公民館

平成19年に宇品の歴史や自然が好きな人が集まって発足し、毎月1回程度宇品の歴史に関する勉強会を行っています。また、宇品地域を中心に「まち歩き」を通じて史跡や自然の紹介や、講師を招き宇品の歴史にまつわる講演会などを開催しています。

宇品は明治時代に広島県令(知事)千田貞暁の事業によってできた比較的新しい街ですが、明治22年の宇品港の完成により、日清戦争から終戦まで、戦争との関わりも深く、現在でも幾つか、軍の史跡が残されています。

また、宇品出身の力士として、1930~40年代に活躍した広島県唯一の横綱、安藝ノ海がいます。安藝ノ海は、69連勝中の横綱双



葉山を倒し、一躍有名になりました。これに関わり、うじな通実行委員会では、紙芝居「安藝ノ海物語」を制作し、毎年広島港などで展示をしています。

宇品の歴史と自然を愛する「宇品ファン」になって、一緒に活動してみませんか。皆様の参加をお待ちしています。

4 似島通学路沿いの竹林を整備する会

似島公民館

月に1回、中学生が中心になって地域の方と一緒に似島中学校の通学路沿いの竹林を整備しています。

元々は、うっそうとした竹やぶでしたが、「一本伐れば一本分が射し、一本伐れば一本分、風が通る。」を合い言葉にみんなで少しずつ取り組みました。

そうしていくうちに、どこから手を付けてよいか分からなかったような場所に、水が湧いているのを見つけました。

ほうぼうの竹やぶだった場所が海の見える広場になり、春には咲き誇る菜の花とともに新入生を迎えました。

私達ができるのは目の前にある竹を一本伐るだけの小さな活動ですが、皆で力をあわせながらコツコツと続けることにより、大きく変わっていく風景を眺めていると「私達は微力だけど決して無力ではない」という思いが湧いてきます。

作業の合間に「名物・竹林カレー」を皆でいただくランチタイムや、似島中学校を卒業したOBがギターを奏でて歌ってくれる竹林コンサートなど、楽しい広がりも生まれています。

広島市の南の窓である似島に、風が渡り光が射し、笑い声と音楽が響く場所を。

これからも、小さな一歩を積み重ねて行きたいと思っています。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- 1 大河公民館 …………… ☎082-254-6731
- 2 楠那公民館 …………… ☎082-255-2187
- 3 宇品公民館 …………… ☎082-253-2529
- 4 似島公民館 …………… ☎082-259-1100

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

リトミック・音楽レクリエーション みずぐち さとみ 水口 聡美さん

情操教育としても認められているリトミック 音楽を通して心豊かに、自己表現できる子どもに育ってほしい

水口さんが人材バンクに登録したのは約1年前。既に登録し活躍している母親の存在がきっかけでした。小さい頃から子どもが好きで、近所ではいつも子どもの世話をしていたそう。そんな性格から音楽やリトミックにも興味を持ち、幼稚園での指導も行っていました。登録後の令和4年12月には安芸区の公民館で親子を対象としたリトミック教室を開催し、1歳半から3歳までの親子と触れ合いました。

「レッスンを通して『想像力・創造性・集中力・協調性』など子どもの持っているあらゆる能力を引き出しています」と水口さん。リトミックは情操教育としても認められており、音楽を通して子どもたちに心豊かに育ってほしいと、日々活動しています。保護者からの子育てについての相談もあり、「少しでも手助けに

なれば」と、孤立しがちな社会情勢にも対応したレッスンを心掛けているそうです。

水口さんが行うリトミック教室では、季節にあった内容や歌(童謡)・工作、絵本の読み聞かせを取り入れ、子どもたちにも四季を感じてもらえるように工夫されています。自然に目を向け、日本の美しい季節を身近に感じることも大切で、そこから親子の会話も増えてくれればと思っています。また、リトミックを行うには子ども一人ひとりにあった関わり方を見極めるのが重要で、それぞれ個性があり性格も違うので、保護者とコミュニケーションを取りながら、どんな性格なのか?どんなものに興味があるのか?などを把握し、無理なく楽しんでもらえるレッスンを心掛けているそうです。「子どもたちは素直でひたむき。昨日できなかったことが突然できたり、驚くような成長も見せてくれるので本当に楽しく活動させてもらっています。親が楽しんでいたら子どもも楽しい。親子で一緒に音楽を通して心を癒し、そんな中で1つでも出来たら、その喜びをしっかりと受け入れてほしいと思います」と話す水口さん。

発達障害支援アドバイザーの資格も取得し、幅広く子どもたちに対応できるよう、活動の場を広げており「子どもに将来、困難の壁が立ちだかかってしまったとき、その悩みを誰にも打ち明けられずにいたら、問題はどんどん悪い方に向かってしまう。少しでも自己表現をし、自分を助けることができるようになってほしい、そのためにもこれからもリトミックを通して子どもたちと関わっていききたいと思います」と、語ってくれました。



▲水口聡美さん



▲リトミックで触れ合う親子の様子

まちづくりボランティア人材バンク達人を紹介してもらうには…

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアに来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在 150 名余りの達人が約 180 件のボランティア活動で登録しています。年間 230 件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 210 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のままです。

大丈夫です。

※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザ HP、ひろしま情報 a-net から入手できます。

※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります。)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

Interview 2

言の葉工房‘和’主宰 たき かずこ 滝 和子さん

自らの経験を生かしながら語る「自分らしい学びの場づくり」 言葉で伝えることを追い求め「和子の平和語り」が生まれる

朗読、歌、詩吟などを交えながら、自らの体験を語る滝和子さん。これまで培ってきた語法は聞く人の心にすっと染み渡ります。

愛知、福井を経て平成3(1991)年、広島に移住。すぐに広島県の地域リーダー育成事業の「ひろしま女性大学」で学び、ジェンダー平等、生涯学習、シニア問題、まちづくりをテーマに地域活動をスタート。生涯学習インストラクターやシニアライフアドバイザーの資格も取得し、高校非常勤講師の傍ら公民館などで講師を務めるようになりました。

平成23(2011)年の東日本大震災をきっかけに本格的に「平和」に向き合おうと学びを重ね、自分らしい平和活動を模索して「和子の平和語り」にたどり着いたそうです。

「和子の平和語り」とは、滝さん自らの経験談、世界で起きている悲惨な戦争、核の恐怖など厳しい状況を語りながら、平和の大切さを共感しあいます。その後、参加者からのアンケートをもとに話し合い、より深掘りしていきます。ここで大切なのは、しっかり自分の言葉で表現してもらおうことだと言います。

令和4(2022)年5月、吉島公民館の高齢者のための講座



▲段原公民館で開催された「公民館職員有志による「和子の平和語り」勉強会」の様子

では、戦争の中で生まれ「和子」という平和への願いをその名に負って生きてきた人生を語りました。それからほどなくして「和子の平和語りプロジェクト」を立ち上げ、7月に人材バンクへ登録しました。

「有名人でも、特別な活動家でもないひとりの市民が、市民の皆さんに実体験を話すことで“平和”が身近なことと捉えてもらえるのではないかと話したくても話さず場所がない人にも話し出す機会になるのではないかと。そんな人たちとの交流の場を持ちたい」と滝さんは身を乗り出すように語りました。

活動も2年目を迎え、令和5(2023)年6月にひろしま女性大学同窓会主催“えーるハウス”、7月には仁保公民館、そして2回の福井公演と広がりを見せています。

「まだ始まったばかりですが、参加者からは改めて平和を考える機会をもらったと喜びの声が伝えられています。私にとっても人生最終章に来て、生き直し、出会いなおしをさせてもらっているようでありがたいことです。さらに共感の輪が広がっていきますように!」

これから「学びの仕掛人」として、心を込めて語り続けて行きたいと言う滝さん。

「学校や職場、寺や教会、小さな学びの場でも、聞いてくださる人があれば出かけます。合唱団とのコラボレーションなどでもできたらいいな」と今後も精力的な活動に注目したいと言います。



▲法事の感話として行われた本堂での語りの様子

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力をお願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち(登録ボランティア)の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞ来館ください。

日時/8月26日(土)、9月23日(土)、10月28日(土)

毎月第4土曜日午後2時~3時半

※時間は変更になる場合がございます。

※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。

場所/北棟6階マルチメディアスタジオ(無料:要事前申込)

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ ☎(082)545-3911 ㊟(082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。

※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。

※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。